

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成二十六年 度 総 祈 願
佛立開導日 扇聖人 二生誕 二百年 慶 讃
佛立開花運動 第二年度 御奉公 成就
本年度 自主 教化 誓願 達成 之 御 願
日序上人 御十七回忌 報恩 御奉公 成就
役中 後継者 養成 法灯 相統 促進

本堂落慶開筵式に団参いたします。ゴールデンウィークの真つ只中の日程で、渉外部としては懸命な努力をして参詣者をなんとか確保できた状態でありました。

本寺、別院ともに一万遍口唱会への将引を徹底させましょう。
五月朝参詣強調週間
二日～六日まで
第三連合担当

五月の御総講日
一日 十時 御修行日
七日 九時半 バースデー総講
日序上人報恩祈念
(一万遍口唱会)

十三日 十時 高祖御命日
開導御命日
十七日 十時 門祖御命日
廿五日 十時 於 清流寺
十二日 十時 高祖御速夜
開導御速夜
十六日 十時 門祖御速夜
廿四日 十時 於 羽村別院

特別行事
十一日 第八世講有日 歡上人
御会式
晴天祈願 四日～十日迄
第一座 六時
第二座 九時半
廿五日 御総講後 役中会議
教区長会議

5月11日 10時30分 佛立第八世講有日 歡上人御会式 新緑の羽村別院にて

来る十一日(日)十時三十分より羽村別院に於て、佛立第八世講有日歡上人の御会式が奉修されます。
この御会式は略して歡尊会とも申します。
年に一度だけ当山は、日歡上人への報恩の志を歡尊会として奉修させて頂くのです。
第八世日歡上人は、大乘泉寺を築かれた御導師です。
日歡上人は御歳卅三歳の砌師命を受けて荒れ放題だった本門法華宗の乗泉寺の住職に赴任。当時の乗泉寺は、雨もりはする、昼はポロポロ、内陣には鼠が入り出すといつ

た全く想像に絶する状態だったそうです。
この様な状況ですから、檀家もお寺に寄りつかないありさまでした。
日歡上人は、檀家を一軒一軒廻り、ご先祖の追善供養を懇切にねいにお勤めになりその御布施で本堂の改修などにご尽力されました。
そして朝参詣も始められ、最初のうちは参詣者も殆どない状態でしたが、やがて参詣者もポツポツと増えてきました。
日歡上人は、ご信者宅のお助行に力を入れ、その結果、めざましい現証が顕れ、今ま

で懈怠していたご信者も改良し、ご弘通が進展していきました。
現在、乗泉寺は末寺、孫末寺を含め百ヶ寺余りの大乘泉寺となっており、日歡上人のご奉公の賜と申せましょう。
わが清流寺も、この日歡上人の薫董を受け、おかげを蒙っているのです。
このようなわけから、当山は、年に一度歡尊会を奉修させて頂いていただいているのです。

五月七日(水) 六時
一万遍口唱会
毎月七日は、日序上人報恩ご奉公円成の為の一萬遍口唱会です。午前六時より、バースデー総講の終了迄の時間帯で、六月にお迎えする御十七回忌に一戸でも多くお供え教化が成就できるようにとの口唱会で、羽村別院は十二日の高祖大士御速夜総講日をおこの一万遍口唱会として実行しております。
今月は、歡尊会の翌日となりますので廿四日の門祖御速夜総講日に実施いたします。

五月四日(日)
大阪・清風寺
本堂落慶開筵式参詣
前々からご披露のとおり、四日(日)に大阪・清風寺の

五月二日(金) 国分寺教区
三日(祝) 小平教区
四日(祝) 東村山教区
五日(祝) 小金井教区
六日(火) 昭島教区

日序上人御十七回忌報恩ご奉公御有志奉納者氏名(その五十五)
(教区順、敬称略、順不同)
二十六年四月十七日現在
合計七五六名、一、五〇五口

本月の御妙判

柔和質直



月は影を水に浮ぶる。濁れる水には栖むことなし。木の葉や、草の葉なれども、澄める露には、うつる事なれば、かならず、国主ならずとも、正直の人の頭には宿り給ふべし。(四条金吾殿女房御返事)
濁れる水というのは、色が濁っているだけでなく、混乱し、動揺して静かでない水のことです。こうい

う水には月は映りません。草の葉や、木の葉の上に置いた露は、まことに小さなものですが、月影がこれに宿るのであります。いかに、多くの経を読んだり、諸宗の教理を学んでも「一心に佛を信する」という心のない者は、佛の御力をその心に宿すことが出来なから、仏天の御守護はありません。

では、どういふものがみ仏のお心に叶うかと申しますと、寿量品に
「衆生既ニ信伏シ、質直ニシテ意柔軟ニ、一心ニ仏ヲ見タテマツラント欲シテ自ラ身命ヲ惜シマズ」
と説かれてあります。
質直とは名利の念を離れて一切の虚偽を捨てたこと。柔軟とは自我に執着のないこと。そして身命を惜しまぬ心になれば如何なる苦勞も厭う筈はないわけです。このお経文の如き心には、いくら努力しても、仲々なれるものではないありません。質直というこ

とも、柔軟ということも更に「不自惜身命」までも、やはり、経力でなければ成就しません。経力というものは「受持口唱」からだけしか頭われませんから、日々御信心に怠りなく、とくに、朝夕のお看經のよくあがっている者は、先述の木の葉の露でも、草の露にも月影が宿るように仏の御力が宿るものであるから、いつでも素晴らしい経力の頂けるような、質直な、柔軟な心をもって信者らしい日常の口唱修行に励まなければなりません。
この御妙判の対告衆(相手)は四条金吾ですが、当時の御

信者の中で、四条金吾程の強信者はなかつたわけですが、身分としては、江間氏の家来で、さほど地位の高い武士ではなかつたのですが、仏の御意に叶った信者であつたため数々の御利益を頂いたということ。
お経文には
「若シ其レ法ヲ求ムル者ハ応ニ種性ヲ觀ルベカラズ。心悪ナレバ形ヲシテ賤シカラシム。善意ナレバ身ヲシテ貴カラシム。」
と説かれてあります。仏法を学ぶ者は身分の高下でなく、心がスナヲで柔軟でなければならぬというの

で、仏様に對し心が柔軟であればヒトリデに仏果を頂くのであります。御信者は、「正直捨方便」というお経文、「勤加精進」というお経文をうして、「質直柔軟」というお経文にわが心をあわせる事が御信者としての絶対の心得でなくてはなりません。
中々に物学びより心をば
正直にする稽古第一
中々に物学びよりこころばすなをにするがむつかしかな
経云
柔和質直者則皆見我身文。
仏説を疑わず故に御利益速也
(14-107)